

「宿命でもなく、運命でもなく、召命に生きる！」

主任牧師：重田 稔仁

<メッセージ>

男女の運命的な出会い、宿命的な出会いを俗に赤い糸で繋がっていると言いますが。男女の出会いだけでなく、人や仕事との出会いも運命的とか宿命的と表現することばを良く耳にします。そもそも運命、宿命とは何でしょう。

一般に宿命、運命という言葉は同じような使われ方をしますが、実はその意味は全く違います。日本語の運命は人間の意思によらず巡り合わせによって出会うものを指す言葉、運=巡り合わせ

宿命は人間の生まれる前から定められているものを指す言葉です。運命、宿命に共通していることは共に人間の意思が関与しない、出来ないということです。

今朝、私たちが考える召命と何でしょうか？召命とは、[神の計画とそれを成就する神の導き]を指します。

宿命、運命と召命の違いは何か。

召命は宿命、運命と異なり 〈神の意思と人間の意思の一致〉 によって成就される。

今朝はこの神の召命に導かれて生きたアブラハムの人生とヤコブの人生から“召命に生きる人の幸い”について学んでみたいと思います。

朗読 創世記 15:1～21

「これらのことの後で、主の言葉が幻の中でアブラムに臨んだ。「恐れるな、アブラムよ。わたしはあなたの盾である。あなたの受ける報いは非常に大きいであろう。」アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。わたしに何をくださるというのですか。わたしには子供がありません。家を継ぐのはダマスコのエリエゼルです。」アブラムは言葉をついだ。

「御覧のとおり、あなたはわたしに子孫を与えてくださいませんでしたから、家の僕が跡を継ぐことになっています。」見よ、主の言葉があった。「その者があなたの跡を継ぐのではなく、あなたから生まれる者が跡を継ぐ。」主は彼を外に連れ出して言われた。

「天を仰いで、星を数えることができるなら、数えてみるがよい。」そして言われた。「あ

なたの子孫はこのようになる。」

主は言われた。「わたしはあなたをカルデアのウルから導き出した主である。わたしはあなたにこの土地を与え、それを継がせる。」アブラムは尋ねた。「わが神、主よ。この土地をわたしが継ぐことを、何によって知ることができましょうか。」主は言われた。「三歳の雌牛と、三歳の雌山羊と、三歳の雄羊と、山鳩と、鳩の雛とをわたしのもとに持って来なさい。」アブラムはそれらのものをみな持って来て、真っ二つに切り裂き、それぞれを互いに向かい合わせて置いた。ただ、鳥は切り裂かなかった。

日が沈みかけたころ、アブラムは深い眠りに襲われた。すると、恐ろしい大いなる暗黒が彼に臨んだ。主はアブラムに言われた。「よく覚えておくがよい。あなたの子孫は異邦の国で寄留者となり、四百年の間奴隷として仕え、苦しめられるであろう。しかしわたしは、彼らが奴隷として仕えるその国民を裁く。その後、彼らは多くの財産を携えて脱出するであろう。あなた自身は、長寿を全うして葬られ、安らかに先祖のもとに行く。

日が沈み、暗闇に覆われたころ、突然、煙を吐く炉と燃える松明が二つに裂かれた動物の間を通り過ぎた。その日、主はアブラムと契約を結んで言われた。「あなたの子孫にこの土地を与える。エジプトの川から大河ユーフラテスに至るまで、ヘト人、ペリジ人、レファイム人、アモリ人、カナン人、ギルガシ人、エブス人の土地を与える。」

創世記 15:1～21

本論

今朗読した聖書箇所はヤコブの祖父アブラハムに語られたアブラハムとその子孫の将来についての主のことばですが。

アブラハムの孫ヤコブは、彼とその家族が定住していたカナンの地が飢饉に襲われたとき、行き別れとなり死んだと諦めていた11番目の息子ヨセフが生存し、エジプトの宰相として権力の座にあることを知り、その息子の招きと主の啓示に従って一族郎党エジプトに移住することを決意しました。

その経緯について記したのが、

創世記 46章 1～7節です。

朗読～

「イスラエルは、一家を挙げて旅立った。そして、ベエル・シェバに着くと、父イサクの神にいけにえをささげた。その夜、幻の中で神がイスラエルに、「ヤコブ、ヤコブ」と呼びかけた。彼が、「はい」と答えると、神は言われた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトへ下ることを恐れてはならない。わたしはあなたをそこで大いなる国民にする。わたしがあなたと共にエジプトへ下り、わたしがあなたを必ず連れ戻す。ヨセ

フがあなたのまぶたを閉じてくれるであろう。」 ヤコブはベエル・シェバを出発した。イスラエルの息子たちは、ファラオが遣わした馬車に父ヤコブと子供や妻たちを乗せた。ヤコブとその子孫は皆、カナン地方で得た家畜や財産を携えてエジプトへ向かった。こうしてヤコブは、息子や孫、娘や孫娘など、子孫を皆連れてエジプトへ行った。」

創世記 46:1-7 新共同訳

ヤコブのエジプト移住は、神がヤコブの祖父アブラハムに告げた神の計画の成就だったと結論づけるために敢えて創世記 15:1~21 と 46:1~7 の二つの聖書箇所を併せて朗読致しましたが。

此処で素朴な疑問

“神は何故、アブラハムの子孫をエジプトに導かれたのか？”

この問いにお答えする前に、

冒頭で申し上げましたが。

私たちが神の召命に生きるとはどう云うことか、改めて確認します。

神の召命に生きるとは、「私たちの人生に計画を持っておられる神のみ心とその導きに私たちが自発的に従うこと」です。

<繰り返し>

神の召命に生きるとは、私たちの人生に計画を持っておられる神～自発的に従うことです。

今朝、私たちが紐解いている聖書は、アブラハムとヤコブの生涯を通して、人が神の召命に生きるためには、<信仰が必要だ>と証ししています。

“神の召命に生きるための信仰”とは！

アブラハムは未だ彼の後継をその目で見える前に彼の子孫の繁栄を約束した神のことばを信じた。創世記 15:1~

ヤコブもアブラハム同様、エジプトに移住する前に彼をエジプトからカナンに連れ戻すとの神のことばを信じた。

創世記 46 章~

アブラハムとヤコブは神の約束に従いました。何故、彼らはそうしたのか。

それは彼らが彼らの人生に計画を持っていた神のみ心を知っていたから。

神のみ心とは、<神は人と共に生きることを切望しておられる。>

聖書は、人が神のみ心を知り、

神と共に生きるためには、〈自発的に自分の世界から離れる必要がある〉ということを一貫して教えています。

自分の世界とは、自分が中心の世界です。アブラハム、ヤコブとその子孫にとってエジプトはまさに自分が中心ではいられない世界でした。したがってヤコブとその子孫が神と共に生きるために彼らら自分たちの住み慣れた世界、すなわち自分の世界カナンから離れる必要があったのです。

神は私たちと共に生きることを切望しています。この神と共に生きるために私たちは自分たちの住み慣れた世界から離れる必要があります。それはアブラハムが神と出会うために親族、故郷を離れたように、ヤコブが神と出会うために定住地のカナンを離れたように。

みなさん信仰とは、人が神を知り、神の召命に生きる始めの一步です。どんに小さな一步でも、人が自分の世界から離れて、信仰の世界に踏み出すとき、人は神を知り神の召命に生きるものとされます！

二週間前、ヨナの物語を晋也先生が解き明かしてくださいました。メッセージを聞いて数日経って気がついたことがありました。それは、神はヨナと出会いたかったんだなあ、神はヨナにご自身を知って欲しかったんだなあと。だから、神はヨナをニネベに遣わしたんだなあと。

何が言いたいかと云うと、ヨナ書がメッセージしている最重要課題とは、ヨナのように神を知っている、神を信じていると主張するあなたや私に神は〈いや〉あなたは私を知らない。何故なら、あなたは自分の世界から離れて私と出会うことを求めないからだ。ヨナが彼の世界から離れて信仰の世界に足を踏みだして神との出会いを求めたなら、彼は神と出会ったでしょう。ヨナが出会えたであろう神とは、私たちの主イエスが明らかにした、憐み深い神です。

「神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」

ヨハネによる福音書 3:16 新共同訳

神の召命に生きるため、神と共に生きるために、自分の世界から離れて憐み深い神と共に今週も生かしていただきませんか！神と共に生きる時、私たちは、アブラハムやヤコブのようにどんな状況においても生きる勇気と希望を見失うことはありません！それが神の召命に生きるものの幸いですから。

祈り